

8	読む	適切な表現をする(敬語)	名前	解答
		〔知識・技能〕		

敬語とは、話し手(書き手)が、聞き手(読み手)や、話題にする人に対して敬意を表す表現です。
 敬語には、大別して、次の三種類があるので使い分けられることができます。
 丁寧語…話し方全体を丁寧にして、相手に敬意を表す言葉。
 尊敬語…相手や、話題にあがっている人の行動・物事を敬って(高めて)敬意を表す言葉。
 謙譲語…相手や話題の人物を敬うために、自分や自分側の行動・物事をへりくだって相手に敬意を表す言葉。

身に付けると...

相手や場面に応じた適切な表現ができるようになります。

やってみよう

〔解答と解説〕

① イ 「動作の主体は、「先生」なので、「言う」の尊敬語「おっしゃる」を選びます。「申し上げる」は、謙譲語なので、不適切です。

② イ 「動作の主体は、「自分」(こちら)なので、「行く」の謙譲語「うかがう」を選びます。「いらっしゃる」は、尊敬語なので、不適切です。

③ ア 「動作の主体は、「先輩方」(はな)なので、「くれる」の尊敬語「くださる」を選びます。「差し上げる」は、謙譲語なので、不適切です。

二 ウ

ア…× 「お客様」が動作の主体なので、「召し上がりました」(尊敬表現)とします。
 イ…× 「私の父」が動作の主体なので、「参ります」(謙譲表現)とします。

ウ… 「先生」が動作の主体なので、「着る」の尊敬語「お召しになる」は適切です。
 エ…× 自分の母親は、謙譲語を用い、「母」「お母さん」は尊敬表現です。

- ① ア
- ② イ
- ③ ア
- ④ ウ
- ⑤ イ
- ⑥ ウ
- ⑦ ア

「いらっしゃる」「+」ます」「=」「いらっしゃいます」のようには、「尊敬語」+「丁寧語」と組み合わせ使用することが多いです。

《参考にしよ》
 学習プリント基礎・基本編
 「読む」と「手引」
 「敬語表現に強くなる」

【尊敬語と謙譲語の見分け方や使い分け方のポイント】
 尊敬語と謙譲語は間違いやすいものです。見分け方や使い分け方のポイントを覚えておきましょう。

尊敬語 動作の主体が相手。高める。
 謙譲語 動作の主体が自分。へりくだる。